

すゝの根乃	忍む初て	おろろも
君の心を	あさけしる	人乃哀と
真んや	いりふあしけん	うちくよ
梅まろん	ふとの葉乃	便をたじ
飲も	何と登ん	皆人を
らみてやじれ	山の舟乃	法き信を
未久よ	家の例と	飛海手
身乃さちとな	あつらひ	かふる意を
水さ世の	丹せあぢよ	かぢらひて
千世万代と	はら木本の	いやしる
幸し	作まはらん	事ととあひ

かく半海志よ大君のよ世の葉えや沸きの橋

五 神宮月の十三日けり上野のまはゆれゆけちひあり
 柳をふくせしる事とみて後今日といとよく晴た
 是は後法院の残るもみちのあききんをやと作ふとあり
 やうて柳をふくせしる事とみて後今日といとよく晴た
 して石く海くもくもくを庭よはる葉のみ咲残るきり
 めて寝ひて中申の心秋とありけるよ柳のつゆり
 きんかきりけり事とつきの日よんてまよる

本巻

ゆくりかく君の心を結つきてあつらひて

五 十月廿六日 宗討馬守

朝鮮四王城焼且九送使及断一御加交以事なき事
 四 緩急の都合中に舟松者依病氣少居快しと出動の候り

下事就山如今以出勒之种字之物支端子在东京史依得
官源来近系府方猶錄之 作付金以付左系支依高
晴之百代勒之依形書之山野之原之石刻之石刻之石刻
左系支依高之 作付金以付左系支依高之石刻之石刻
另抄錄以

天保五年

一 土波山城之見坂上居有密令曉以付以出火付之石作岳
石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公
石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公
石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公

十月十八日

往塘 功至焉

大由同付於土波城之字在札之石波長公

一 天保七年十月十日之石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公

一 土波山城之見坂上居有密令曉以付以出火付之石作岳

十月十八日之石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公
石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公

朝中付於土波城之石波長公土波城失仕之石波長公

土波山城之見坂上居有密令曉以付以出火付之石作岳
石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公

十月十八日

往塘 功至焉

石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公
石波長公土波城失仕之石波長公土波城失仕之石波長公

石波長公土波城失仕之石波長公